

各関係機関長 殿  
調査員 様 (別記受信者)

香川県農業試験場病害虫防除所長

令和 4 年度病害虫発生調査速報第 5 号について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

令和 4 年度 病害虫発生調査速報 第 5 号  
ネギハモグリバエ B 系統の薬剤感受性検定 (結果の速報)

1. 対象作物：野菜・花き類
2. 内容：ネギハモグリバエ B 系統の薬剤感受性検定を行ったところ、すべての生育段階で高い効果が確認された薬剤はグレーシア乳剤およびリーフガード顆粒水和剤であった。
3. 薬剤感受性検定
  - 1) 供試個体：令和 3 年 10 月 20 日に丸亀市のネギ圃場から採集した個体群を累代飼育して用いた。
  - 2) 供試薬剤：第 1 表の 11 剤を供試した。なお、対象の水を含め、展着剤アグラール 5000 倍を加用した。
  - 3) 処理・調査方法：
    - (1) 卵孵化前処理：小容器植えのネギを静置したケージ内に成虫を放飼して 48 時間産卵させ、成虫を除去したのち、ネギの葉身部分を薬液に 30 秒間浸漬処理し、5 日後に生存幼虫数、死亡幼虫数、未孵化卵数を計数した。未孵化卵は死亡として扱った。
    - (2) 幼虫若齢期処理：(1) と同様に産卵させ成虫を除去し、3 日後に (1) と同様に薬液に浸漬処理し、3 日後に生存幼虫数、死亡幼虫数を計数した。
    - (3) 幼虫中・老齢期処理：(1) と同様に産卵させ成虫を除去し、4 日後に (1) と同様に薬液に浸漬処理し、処理 3 日後に生存幼虫数、死亡幼虫数、蛹数を計数した。蛹は生存幼虫として扱った。
    - (4) 産卵前処理：葉身部分を薬液に 30 秒間浸漬処理した小容器植えのネギをケージ内に静置し、その中に雌成虫を約 30 頭放飼し、48 時間産卵させ成虫を除去した。5 日後に産卵数 (生存幼虫数、死亡幼虫数、未孵化卵数の合計) を計数し、無処理区の結果との比較により産卵割合を算出した。
4. 結果の概要
  - (1) リーフガード顆粒水和剤およびグレーシア乳剤は、卵から幼虫の全生育段階に対して殺虫効果が高かった。(第 2 表)。
  - (2) アグロスリン乳剤、ベストガード水溶剤、アフーム乳剤、リーフガード顆粒水和剤、ベネビア OD およびグレーシア乳剤は、成虫に対する産卵抑制効果が高かった。

第1表 供試薬剤および希釈倍率

系統分類	IRAC コード <sup>1)</sup>	薬剤名		希釈倍率
		一般名	商品名	
有機リン系	1B	プロチオホス乳剤 <sup>2)</sup>	トクチオン乳剤 <sup>2)</sup>	1,000
ピレスロイド系	3A	シベルメトリン乳剤	アグロスリン乳剤	2,000
ネオニコチノイド系	4A	ニテンピラム水溶剤	ベストガード水溶剤	1,000
アベルメクチン系 ミルベマイシン系	6	エマメクチン安息香酸塩乳剤	アフーム乳剤	1,000
スピノシン系	5	スピネトラム水和剤	ディアナSC	2,500
ネライストキシン類縁体	14	チオシクラム水和剤	リーフガード顆粒水和剤	1,500
ジアミド系	28	シアントラニリプロール水和剤	ベネビアOD	2,000
		テトラニリプロール水和剤	ヨーバルフロアブル	2,500
メタジアミド系	30	プロフラニリド水和剤	プロフレアSC	2,000
イソオキサゾリン系		フルキサメタミド乳剤	グレーシア乳剤	2,000
ミトコンドリア電子伝達系複合体III阻害剤 (Qi部位)	34	フロメトキン	ファインセーブフロアブル	2,000

<sup>1)</sup> 殺虫剤抵抗性対策委員会 (IRAC) により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの

<sup>2)</sup> プロチオホス乳剤はネギハモグリバエまたはハモグリバエ類に適用はない

第2表 ネギハモグリバエB系統の薬剤感受性検定結果

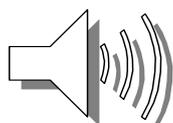
薬剤名 (商品名)	補正死亡率 (%) <sup>1)</sup>			産卵前処理			産卵割合 (%) <sup>2)</sup>
	孵化前処理	若齢処理	中・老齢処理	生存幼虫数	死亡幼虫数	未孵化卵数	
トクチオン乳剤	95.4	36.2	54.5	121	8	0	62.9
アグロスリン乳剤	94.2	97.4	51.8	0	0	0	100
ベストガード水溶剤	98.1	96.3	28.7	28	1	0	92.4
アフーム乳剤	88.2	79.7	3.9	32	22	8	81.0
ディアナSC	98.0	77.5	28.7	71	40	1	66.8
リーフガード顆粒水和剤	100	98.6	80.5	0	0	0	100
ベネビアOD	96.9	100	53.6	5	11	1	94.4
ヨーバルフロアブル	84.7	74.1	0	87	4	0	72.1
プロフレアSC	60.4	4.1	6.9	72	12	0	71.4
グレーシア乳剤	83.0	100	73.9	1	7	6	95.2
ファインセーブフロアブル	16.3	16.4	5.4	121	0	0	58.8
対照 (水) 死亡率	13.6	1.3	2.3	318	8	0	-

<sup>1)</sup> 補正死亡率 = [(無処理区生存虫数 - 薬剤処理区生存虫数) / 無処理区生存虫数] × 100 (Abott)

<sup>2)</sup> 産卵抑制割合 = (無処理区の1雌成虫あたりの産卵数 - 各処理区の1雌成虫あたりの産卵数) / (無処理区の1雌成虫あたりの産卵数) × 100

### 5. 防除対策

- 1) 薬剤によっては中老齢幼虫に対する効果が劣る場合があるため、若齢期の薬剤防除に努める。
- 2) 本害虫と同時に他のネギ主要害虫の防除を行う場合、ネギアザミウマが多く発生している圃場では、ベネビアOD、グレーシア乳剤を、また、シロイチモジヨトウが多く発生している圃場ではディアナSC、グレーシア乳剤を使用する。
- 3) 被害葉および収穫終了後の茎葉は発生源になるため、土中に埋めるか、ビニール等で被覆するなど適正に処分する。
- 4) 蛹は土中に存在しているため、定植時の土寄せを行い、羽化を困難にさせる



6月～8月は、農薬危害防止運動月間です。

農薬の使用が増える時期ですので、今一度、農薬を適正に使用できているか、チェックしましょう。

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <http://www.jppn.ne.jp/kagawa/>

